

学校新設などに関する市民意向調査「提言」記入シート

A班 氏名 横大路

※10月23日(金)までにメールにて、ご提出願います。

①これからの福津市の学校教育のあり方

義務教育の「あり方」と言う事であれば文科省の教育指導要領を骨子としたカリキュラムに則って進められるものと思いますが、昨今の国の方向性は小学校への英語教育やICT教育の導入など、大人社会の地方創生策、「まち・ひと・しごと総合戦略」のような多分に経済中心の労働力確保の観点でしかない彌縫策と同様、児童・生徒個々の多様性は蔑ろにされ、幼いうちから国家に従順な労働者予備軍の養成工場のような洗脳作業の場になりつつある気がします。英語にしてもPCにいくら精通してもただのツール、この道具の教育目的化は大きな間違いで、むしろこの道具を駆使して表現する素養を身に付けさせる事の方が最重要だと思います。

義務教育の9年間は授業・運動・遊びを通じ子供たち其々が自己の得手領域に気付き、「自分でモノを考える事ができる人格(人間力)」を身に着ける為の基礎の基礎の段階であり、この期間に身につけた思考力がその人の一生を左右する事になる最も大切な時間だと思います。教育関係者(教育委員会・教師・保護者・周りの大人も含め)は子供達の個性を極力大切に、多様性を重んじ伸び伸びと生活できるしくみや環境を教育現場で提供できる思考回路をいつも持つ事が肝要だと思います。あくまで主役は子供たちです。大人の都合中心で児童生徒の人格を蔑ろにしては決して駄目です。

②学校施設の過大規模化の緩和・解消に向けて

小山前市長の頃、直接お話しする機会があり、その節に小山さんは「横大路よ、福津市の人口はどんどん増加している、どうだ凄いだろう！」と誇らしげに話され、これに対し私は「福岡市の伸びが引金で、比較的地価の安い福津市への若いカップルの流入現象だから、やがてその子供たちの保育所や学校の問題がたちまち顕在化しますよ、将来を見据え早く構想着手しないと」と話した事を思い出します。残念ながらこの件は先送りされ今日に至っているのが現状ですが、先ず国が定めた小・中校の最低設置基準に照らすと、福津市の現状は小学校7校中、特に福間小・南小の2校は児童数に対し最低守らなければならない設置条件(特に運動場)との乖離が大き過ぎて、もはや詰込み部屋状態であると言っても過言では無いと思います。この実態の中で教育関係部署から何故新設中学校(案)が出たのかが何度考えても理解できません。確かに中学校の生徒数も同様に大きく伸びてはいますが前述の設置基準に照らせば3校とも敷地面積はかなりの余裕があり、現敷地内での増設で対応可能だと思いますし、後述しますが、全市民の共有地である竹尾緑地公園利用(案)で出てくるとは？本当に理解不能です。今現在、火を噴いているのは中学校ではなく小学校です。その当時、先読み行動をしなかった付が特に両校の児童に対し、被害者として日々の学校生活を強いているのが現状です。これらを踏まえ、急がば回れの格言通り、先ずはスタートラインを小学校新設に統一し、この線に沿って着々と解決するべきです。(主役である子供たちの教育環境最適化の為に！)

その他（記入枠が不足する場合、その他のご意見等がございましたらご記入ください。）

以下の理由等で竹尾緑地中学校新設（案）は決して進めてはならないと思量します。もし進めれば西鉄宮地嶽線の廃線等と同様、福津市にとって取返しのつかない汚点になる事は必定です。

○先ず市民共有の財産である竹尾緑地公園を所有者である市民に対し、何のことわりも入れず一方的に学校建設に使います。まるで地上げ屋のような発想がそもそも理解できません。確かに市有地の保全・管理は行政に委ねられているのは理解しますが、行政の所有物ではなく市民全員の共有財産である筈です。教育関係部署のそもそもの勘違い（作為的か？）が大元にある気がします。

○国連が掲げるSDG'sに基づく環境保全について、全市を挙げて推進するのであれば、竹尾緑地のような数少ない自然は、将来に渡る子供たちの為にありのままの姿で残してやらねばと思います。環境保全がいかに重要な事か、遠足などの教育カリキュラムを通じて現地に行き、絶滅危惧種の小動物を見たり観察する事で、生命に対する繊細な感性を育てる大切な教育現場として利用すべきです。

（今までの経済優先の開発・開発という大人の都合だけではもう地球そのものが生存し辛くなりつつある事を幼い頃から認識してもらう事がこの星に集う一生命体としての人間の大切な責務だし、教育のかかわり方だと思うのです。）学校建設の為にその敷地の半分以上を開発すれば、その分子供たちに提供できる自然（自ずから然りの姿）は半分以下になってしまい、また元の姿に戻そうとしてもそれは不可能です。いじめ問題などについても個々の子供たちが生命に対する尊厳を持ちえるかどうか解決の糸口の一つである気がします。

○将来の街の姿を見据えた時に、この国の人口減少と同様、10年を待たずして福津市の人口もどんどん減少し始めるのは必至です。その為、今のうちから街全体を居住地域・非居住地域の明快な仕分けをする構想が絶対必要だと思います。福津市程度（5～7万人規模）の規模の街は居住地域を3～4箇所の拠点に出来る限り集約していく事が理想で、特に公の箱物は後々の汎用性も含め、作為的に拠点地区に集約するべきで、社会機能の最重要基盤である学校は最たる事例です。竹尾地区のような100年経ても拠点地区になり得ない辺境地、（古賀市との境界地区）に求めるのは愚か過ぎます。将来、廃校等の時期が必ず到来しますし、その時の事も考慮しておかないとまたまた負の遺産を抱え込む事になることは必定です。

○学校が持つ別の大切な機能として、可能な限り磐石な防災拠点としての機能を併せ持つ事が求められますが、この面から見ても立地・地質条件等で竹尾地区は不向きです。豪雨や台風等で避難行動の必要が生じた際、最も被害の出やすい場所に避難させる事になりかねないし、多くの避難当事者が逃げる際に車を利用しないと対応できないようなアクセス面も含め、最も脆弱な地区である事は否めません。過去、URが宅地開発調査を行った際に脆弱地盤や活断層、ため池の存在等で宅地地域としては不向きの烙印を押し、開発を断念した地域でもあり既に証明されています。

○5・4制の導入については振って沸いたような話で、小生の勉強不足かもしれませんが子供たちの教育にとって明らかに有効であるという認識には現在も至りません。もし本当に有効なのであれば憲法26条—1にある、「等しく教育を受ける権利」にあるように一地区限定の話ではなく国全体の仕組み変更で、極力地域格差の生じない教育環境の均一化が必須で、文科省の専権事項である気がします。どうも竹尾地区に中学校を新設する為の言分け材料か、話題性や人気取りの一環として出てきた代物という気がしてなりません。大人視点の押し付けは厳に慎むべきです。

（再度書きます、主役は子供達です。福津市の将来に渡るあるべき姿に合わせて、その教育環境の最適化が最も重要です。！！）

※本シート情報は、総合教育会議の参考とする以外の目的には使用いたしません。